出典：2022 年 7 月 29 日　毎日新聞　朝刊

毎　日　新　聞　〔第3種郵便物認可〕

週刊金曜経済

けいざい最前線

若者たちの挑戦応援

大学受験手続き SNS提供に発展

ODKソリューションズ 勝根秀和社長

情報通信技術の急速な発達に伴って〝第4次産業革命〟とも呼ばれる現代は、個人の情報をいかにその人のために生かしていくかが課題の一つになっている。ITの企業のODKソリューションズ（大阪市中央区）は、金融分野の電算処理技術を大学受験の手続き業務に生かすサービスを半世紀にわたって続けてきた。来春で創業60年。勝根秀和社長（59）に今後の展望を聞いた。

【聞き手・安部拓輝、写真も】

――大学の入学試験業務を手がけたのは58年も前と聞きました。証券や金融関連の会社がどのような経緯から参入し、事業拡大に至ったのですか。

◆その当時、大型の汎用機コンピューターがある会社は関西ではごく少数でした。機密性の高い大量のデータを正確に処理する技術を持っていたところに着目され、関西圏の大学から入試業務のアウトソーシングサービスの相談を受けたのがきっかけです。

2000年前後にはインターネットが急速に普及し始めました。「これからは志願書を郵送しないでよい時代が必ず来る」と考え、ウェブ出願システムの実現に向けたプロジェクトがスタートしました。受験業務処理システムの特許を取得し、04年からサービスの提供を始めています。実績を積み重ねながら、08年には大学の入試業務の処理件数で大学入試センター試験の志願者数（54万人）を上回るまでになりました。

――今では合格通知や入学金の支払いまでインターネットでできるようになっていますよね。

◆大学も願書の提出から入学式の連絡まで各種のサービスを一元化する方向にかじを切っています。当初は各大学が入試業務のウェブサービスを個別に提供していたので、システムの開発や運用に関わるコストの増加が大きな課題となりました。受験生も複数の大学との手続きを管理するのが大変です。

受験に必要な情報を一括管理できるようにしようと考えたのが、大学横断型受験ポータルサイト「UCARO（ウカロ）」でした。大学間の垣根を越えて入試関連の手続きをUCAROに集約し、共通のプラットフォームを作ってあらゆるサービスを提供します。16年に運用を開始して6年がたちますが、現在では全国94大学へ提供し、受験生の半数以上が利用するまでに成長しました。

――受験生の個人情報が毎年、大量に蓄積されていきますね。

◆データビジネスの世界では、本人が知らないところでデータを使うことが見直され始めています。私たちもデータを本人のために活用して新たな価値が生み出せないかと考えて、今年3月からは大学生限定のネット交流サービス（SNS）の「catarO（カタロ）」の提供を始めました。

新型コロナウイルス禍でオンライン講義が増え、サークルやゼミ活動にも制約が生じています。人間関係を構築し、社会とつながって経験を積みたいと思いながらもその機会を得られていない学生の皆さんが、挑戦への一歩を踏み出すお手伝いをするサービスです。多くの学生に足りないのは「やる気」ではなく「きっかけ」です。同じ関心を抱く仲間とつながり、有意義な学生生活を創り出していくインフラとして活用してもらいたい。

――受験生が大学生になり、そして社会人へ。成長と共にデータも育っていくのですね。

◆受験という挑戦を起点に大学生として興味と関心を深め、技能を磨いて就職活動に挑むまでに蓄積されたデータには、社会に向けて成長を遂げる物語が詰まっています。試験や採用活動という関門を乗り越えるためだけではなく、若者たちの挑戦をシームレスに応援していくことで、そこに新たな価値が生み出せると確信しています。catarOは出発点。サービスはこれからも進化を遂げていきます。

――企業や行政機関などから見ると、意欲ある人材を獲得する手段にもなりそうですね。

◆就活は3、4年生なので、企業は通常、入学したばかりの学生との接点はありません。そこで今年5月にPR会社と協業し、1、2年生を対象に働くことを身近に感じてもらうキャリアライブをオンライン配信しました。企業や地方公共団体の側からすると、特定の分野に関心がある学生のコミュニティーにピンポイントで採用情報を流せるツールとなり得ます。

履歴書や数回の面接で適性を測るだけではない、採用システムの構築につながるかもしれません。大学がない地域などでは若者の流出が続き、Uターンしてくるのを待つしかないような状況ですが、地域活性化などに関心を抱く学生とcatarOを介してマッチングを図ることで、有能な人材を得る手立てになるかもしれません。これまでは思いもしなかったような新たなビジネスパートナーが生まれる予感がしています。

――出身地がどこであっても関心のある情報を得られるという意味では、若者たちの可能性を広げることにもつながりそうですね。

◆現在の大学生の約半数は奨学金をもらって生活しています。経済的な事情を抱える若者に向けて、さまざまな団体や企業が奨学金制度を設けています。そうした情報を必要としている人に等しく届け、社会で活躍する道を開くのを支えたいと思っています。

私たちは、社会に羽ばたく若者の大事な情報を扱っています。蓄積されるデータをその人が成長を遂げる物語に変え、その人を必要としている人に届けて、より良い社会を創り出すのに役立てたい。そんな思いを形にしながら成長し続ける企業でありたいと願っています。

ODKソリューションズ
1963年に大阪電子計算として設立。翌64年から大学入試業務の受託を始めた。2006年に現社名に改称。教育・金融・医療などの分野にITサービスを提供している。東証プライム上場。22年3月期連結決算は売上高が55億円、営業利益は4億3600万円。グループ従業員数は195人。

かつね・ひでかず　大阪府出身。1987年にシステムエンジニアとして入社。大学受験ポータルサイト「UCARO」の提供開始時には、教育分野の担当役員として中心的な役割を担った。2020年から現職。

聞いて一言

私が大学に入学したのは1998年。当時はまだ願書の郵送が当たり前だった。関西の大学に決まると九州の自宅から大学に電話をして学生寮を探し、奨学金の申し込み手続きに奔走したのを覚えている。時代は変わり、パソコンやスマートフォンがあれば、どこに住んでいても求める情報が簡単に手に入るようになった。

しかし、進学校の高校生の生活はほとんど変わっていない。定期テストや模試に追われ、部活との両立で手いっぱい。教科書から得られる知識だけでは、やりたいことを見つけ、誰の役に立つために成長していきたいかを考える機会にはなりにくい。

キャリア教育の変革は、高校や大学の先生たちだけではなし得ない。インターネットが同志をつなぎ、なりたい自分を描いていく――。生徒や学生の手元にあるデバイスが変革のツールになるかもしれない。